

経営比較分析表（令和3年度決算）

鳥取県 日南町

業務名	業種・事業名	管理者の情報	自己資本構成比率（％）
法非適用	電気事業	非設置	該当数値なし
水力発電所数	ごみ発電所数	風力発電所数	太陽光発電所数
1	-	-	-
その他発電所数	料金契約終了年月日	F I T 適用終了年月日	電力小売事業実施の有無
-	令和17年9月31日 新石見小水力発電所	令和16年3月7日 新石見小水力発電所	無
売電先	地産地消の見える化率（％）※1		
中国電力株式会社	-		

※1 行政区域内の需要家に小売されたことが客観的に明らかであるものを計上。なお、この基本情報をもって全ての地産地消エネルギーへの取り組みを評価するものではない。

年間発電電力量（MWh）	H29	H30	R01	R02	R03
水力発電	-	171	171	350	212
ごみ発電	-	-	-	-	-
風力発電	-	-	-	-	-
太陽光発電	-	-	-	-	-
合計	-	171	171	350	212

年間電灯電力量収入（千円）	F I T 以外	F I T	合計
	-	7,204	7,204

剰余金の用途について（具体的な使用実績事業を記入してください）
 剰余金は積み立てをしており、次年度以降の施設整備等に使用する。

分析欄

1. 経営の状況について
 ○収益的収支比率
 ここ近年、比率は100%以上で推移しているが、売電収入が安定していないため安定的な発電が行えるよう取り組みが必要がある。
 ○営業収支比率
 「収益的収支比率」と同じく売電収入の確保が重要で、そのための修繕や維持管理、稼働にかかる管理など現在の管理体制を見直すことで、安定的な発電を維持することが必要と考える。
 ○供給原価
 R2年度に続くよい数値と考えるが、稼働期間が確保されたことによってもたらされているため、今後もどれだけ稼働できるか慎重に見守る必要があると考えられる。
 ○EBITDA
 増加傾向は続いているが、総収益の確保が重要と考えており、発電の安定的稼働をより一層進めていくことが重要と考える。

1. 経営の状況

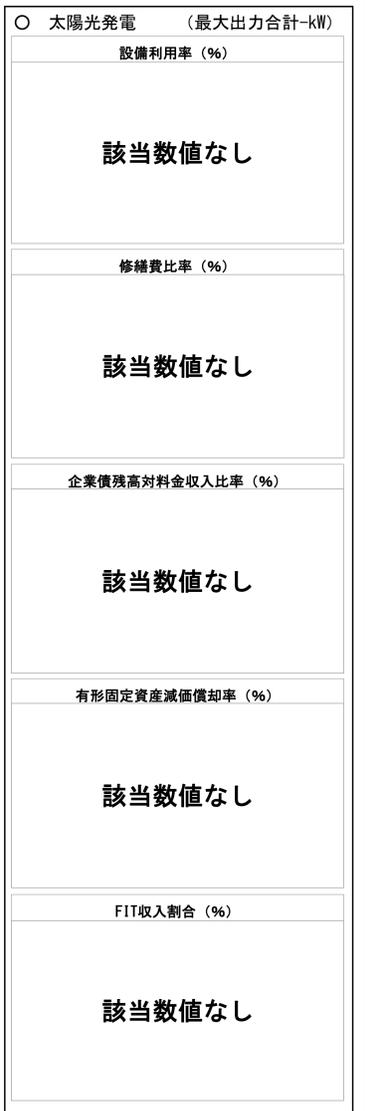
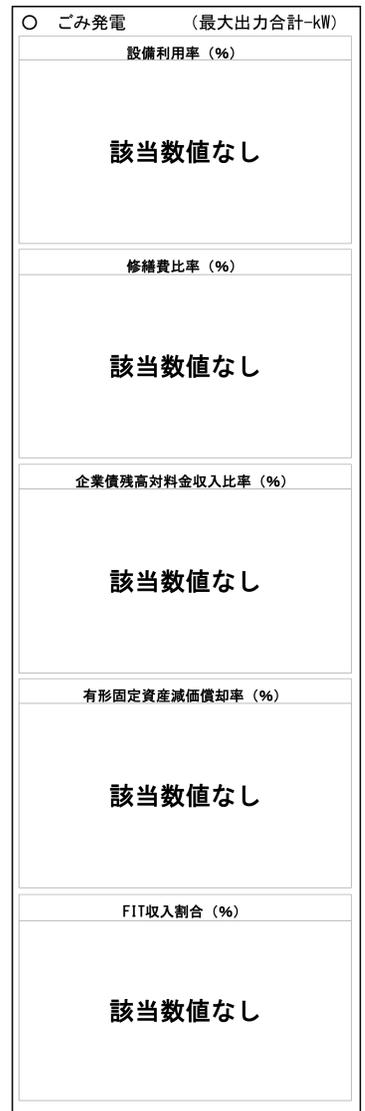


2. 経営のリスク

●施設全体



●発電型式別



2. 経営のリスクについて

○設備利用率
 R3年度は、2か月間の設備の停止期間があったため、R2年度に比べ設備の利用率が下がっている。停止の理由については修繕工事のための発電停止であり、老朽化した部分を抱える本発電所では、致し方ないことと考えるが、修繕方法や停止期間を短くするなどの工夫を行うことで発電の稼働時間を確保し、売電収入を確保する必要がある。
 ○企業債残高対料金収入比率
 比率は前年に比べ下がってはいるが、発電施設の修繕工事を行う可能性があるため、これからも、慎重に見ていく必要がある。修繕を行わなければ、発電効率が悪くなり収益が上がらない、一方、修繕を行えば、公債費残高が上がっていくため、健全な運営ができなくなる可能性があり、バランスを考えた運営を図る必要があると考える。

全体総括

近年は発電施設の稼働がある程度見込める状況で推移しているため、黒字での経営ができてはいるが、施設に老朽化した部分もあるため、改修を行う場合の費用や改修のために発電施設の停止を行った場合に収入が見込めなくなるため、収支を考えた計画的に修繕を行う必要があると考える。

※ 平成29年度から令和3年度における各指標の全国平均値は、当時の団体数を基に算出していますが、設備利用率及び修繕費比率、企業債残高対料金収入比率、FIT収入割合については、令和3年度の団体数を基に平均値を算出しています。